

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料3

令和6年1月15日

協議会名：宮城県地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
(株)ミヤコーバス ----- No.1 白石遠刈田線 (白石蔵王駅～アクティブリ ゾーツ宮城蔵王)	・沿線高校の新入生に時刻表 を配布 ・JR、住民バスとのダイヤ調整 ・令和3年度の経路変更につい て、利用が少ないことから、一 部を元に戻す	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (・今後も高校の登下校に合わ せた時刻調整及び、通学生に 対してバス利用の周知を図る。 【R4】JR列車改正の際に時刻変 更を検討 【R3】・インバウンド対策で白石 蔵王駅との接続を検討する。 ・遠刈田温泉などの観光資源を 活用した企画乗車券を検討す る。) 【事業評価結果の反映状況】 ・高校との打ち合わせの結果、 新入生に時刻表を配布した。 ・インバウンド対策による企画 乗車券の実施(東北インバウン ドバス)	A	計画通り適切に実施され た。	A 運行回数は計画通り、輸送人員は 前々年度比及び前年度比増加し、 運送収入は前々年度比減少し、前 年度比で増加した。 ・輸送人員：前年度比148.2% ・運送収入：前年度比117.3% 【参考】 ・輸送人員：前々年度比121.0% ・運送収入：前々年度比99.1%	・今後も高校の登下校に合わせ た時刻調整及び、通学生に対し てバス利用の周知を図る。 ・インバウンド対策による企画 乗車券の継続(東北インバウン ドバス)
(株)ミヤコーバス ----- No.2 川崎線 (大河原駅前～川崎)	・沿線高校の新入生に時刻表 を配布 ・運行時刻変更の検討の継続	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (【R4】【R3】今後も高校の登下 校に合わせた時刻調整及び、 通学生に対してバス利用の周 知を図る。) 【事業評価結果の反映状況】 沿線高校との打ち合わせの結果 、新入生に時刻表を配布し た。 学校の意見を聴きながら、運行 時刻の検討を実施。	A	計画通り適切に実施され た。	A 運行回数は計画通り、輸送人員・ 運送収入ともに前々年度比減少 し、前年度比増加した。 ・輸送人員：前年度比113.9% ・運送収入：前年度比101.4% 【参考】 ・輸送人員：前々年度比94.7% ・運送収入：前々年度比94.3%	・今後も高校の登下校に合わせ た時刻調整及び、通学生に対し てバス利用の周知を図る。
(株)ミヤコーバス ----- No.3 川崎線 (大河原駅前～村田営業 所)	・沿線高校の新入生に時刻表 を配布 ・列車時刻に合わない便の時 刻変更(7月16日)。	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (【R4】【R3】今後も高校の登下 校に合わせた時刻調整及び、 通学生に対してバス利用の周 知を図る。) 【事業評価結果の反映状況】 沿線高校との打ち合わせの結果 、新入生に時刻表を配布し た。 ダイヤ改正を行い、時刻の調整 を行った。	A	計画通り適切に実施され た。	A 運行回数は計画通り、輸送人員・ 運送収入ともに前々年度比減少 し、前年度比増加した。 ・輸送人員：前年度比114.9% ・運送収入：前年度比111.2% 【参考】 ・輸送人員：前々年度比95.6% ・運送収入：前々年度比98.2%	・今後も高校の登下校に合わせ た時刻調整及び、通学生に対し てバス利用の周知を図る。
(株)ミヤコーバス ----- No.4 利府線 (塩釜営業所～しらかし台)	・沿線高校に時刻表を配布 ・JRのダイヤ改正に合わせた 時刻改正 ・利府町が実施する高齢者へ の運賃補助により利用促進(補 助額増額)	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (【R4】【R3】今後も高校の登下 校に合わせた時刻調整及び、 通学生に対してバス利用の周 知を図る。) 【事業評価結果の反映状況】 沿線高校との打ち合わせの結果 、高校に時刻表を配布した。	A	計画通り適切に実施され た。	A 運行回数は計画通り、輸送人員、 収入ともに前々年度及び前年度比 で増加した。 ・輸送人員：前年度比107.2% ・運送収入：前年度比107.5% 【参考】 ・輸送人員：前々年度比121.8% ・運送収入：前々年度比127.5%	・今後も高校の登下校に合わせ た時刻調整及び、通学生に対し てバス利用の周知を図る。
(株)ミヤコーバス ----- No.5 ゴルフ場線 (マリンゲート塩釜～千賀の 台西)	・沿線高校に時刻表を配布 ・JRのダイヤ改正に合わせた 時刻改正 ・利府町が実施する高齢者へ の運賃補助により利用促進(補 助額増額)	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (【R4】【R3】今後も高校の登下 校に合わせた時刻調整及び、 通学生に対してバス利用の周 知を図る。) 【事業評価結果の反映状況】 沿線高校との打ち合わせの結果 、高校に時刻表を配布した。	A	計画通り適切に実施され た。	A 運行回数は計画通り、輸送人員、 収入ともに前々年度及び前年度比 で増加した。 ・輸送人員：前年度比102.6% ・運送収入：前年度比106.3% 【参考】 ・輸送人員：前々年度比100.7% ・運送収入：前々年度比106.9%	・今後も高校の登下校に合わせ た時刻調整及び、通学生に対し てバス利用の周知を図る。

(株)ミヤコーバス		【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり （〔R4〕〔R3〕今後も高校の登下校に合わせた時刻調整及び、通学生に対してバス利用の周知を図る。）				
No.6 吉岡線 （泉中央駅～道下）	・沿線高校に時刻表を配布	【事業評価結果の反映状況】 沿線高校との打ち合わせの結果、黒川高校に時刻表を配布した。	A	計画通り適切に実施された。	A 運行回数は計画通り、輸送人員、収入ともに前々年度及び前年度比で増加した。 ・輸送人員：前年度比106.4% ・運送収入：前年度比104.4% 【参考】 ・輸送人員：前々年度比108.3% ・運送収入：前々年度比117.8%	今後も高校の登下校に合わせた時刻調整及び、通学生に対してバス利用の周知を図る。
(株)ミヤコーバス		【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり （〔R4〕〔R3〕今後も高校の登下校に合わせた時刻調整及び、通学生に対してバス利用の周知を図る。）				
No.7 色麻線 （古川駅前～色麻町役場）	・本路線も掲載されている大崎市の公共交通総合案内を高校の新生入に配布 ・イベント時のポスター等へのバス情報の掲載 ・運転免許自主返納者に対する割引実施と利用促進	【事業評価結果の反映状況】 沿線学校との打ち合わせの結果、新生入生に時刻表を配布した。	A	計画通り適切に実施された。	B 運行回数は計画通り、輸送人員、収入ともに前々年度及び前年度比で減少した。 ・輸送人員：前年度比90.0% ・運送収入：前年度比93.6% 【参考】 ・輸送人員：前々年度比85.3% ・運送収入：前々年度比82.6%	・今後も高校の登下校に合わせた時刻調整及び、通学生に対してバス利用の周知を図る。 ・利用状況の分析を進め、更なる利用促進を図る。
(株)ミヤコーバス		【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり （〔R4〕〔R3〕今後も自治体と連携した各種取り組みを継続し、バス利用の周知を図る。）				
No.8 石巻免許センター線 （石巻駅前～日赤病院）	・石巻市制作のバスマップを活用し、バス利用を周知 ・より利用しやすいダイヤへの変更を検討	【事業評価結果の反映状況】 ・路線再編後の利用状況について、関係機関で情報共有 ・石巻市制作のバスマップを活用し、バス利用を周知	A	計画通り適切に実施された	A 運行回数は計画通り、輸送人員、収入ともに前々年度及び前年度比で増加した。 ・輸送人員：前年度比102.4% ・運送収入：前年度比104.9% 【参考】 ・輸送人員：前々年度比104.7% ・運送収入：前々年度比106.9%	今後も自治体と連携した各種取り組みを継続し、ダイヤ等改善とバス利用の周知を図る。
(株)ミヤコーバス		【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり （〔R4〕〔R3〕今後も自治体と連携した各種取り組みを継続し、バス利用の周知を図る。）				
No.9 河南線 （石巻駅前～河南総合支所）	・石巻市制作のバスマップを活用し、バス利用を周知 ・より利用しやすいダイヤへの変更を検討	【事業評価結果の反映状況】 ・路線再編後の利用状況について、関係機関で情報共有 ・石巻市制作のバスマップを活用し、バス利用を周知	A	計画通り適切に実施された	B 運行回数は計画通り、輸送人員は前々年度比増加し、前年度比減少、運送収入は前々年度及び前年度比で増加した。 ・輸送人員：前年度比97.2% ・運送収入：前年度比102.2% 【参考】 ・輸送人員：前々年度比105.6% ・運送収入：前々年度比122.0%	・今後も自治体と連携した各種取り組みを継続し、ダイヤ等改善とバス利用の周知を図る。 ・利用状況の分析を進め、更なる利用促進を図る。
(株)ミヤコーバス		【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり （〔R4〕〔R3〕今後も自治体や石巻専修大学と連携した各種取り組みを継続し、バス利用の周知を図る。）				
No.10 石巻専修大学線 （石巻駅前～飯野川）	・石巻市制作のバスマップを活用し、バス利用を周知 ・より利用しやすいダイヤへの変更を検討 ・沿線でのイベント（まきあーとテラス）の際にバス利用を周知	【事業評価結果の反映状況】 ・路線再編後の利用状況について、関係機関で情報共有 ・石巻市制作のバスマップを活用し、バス利用を周知	A	計画通り適切に実施された	A 運行回数は計画通り、輸送人員、収入ともに前々年度及び前年度比で増加した。 ・輸送人員：前年度比108.2% ・運送収入：前年度比101.6% 【参考】 ・輸送人員：前々年度比173.5% ・運送収入：前々年度比138.0%	今後も自治体と連携した各種取り組みを継続し、ダイヤ等改善とバス利用の周知を図る。
(株)ミヤコーバス		【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり （〔R4〕〔R3〕今後も自治体と連携した各種取り組みを継続し、バス利用の周知を図る。）				
No.11 河北線 （石巻あゆみ野駅～飯野川）	・石巻市制作のバスマップを活用し、バス利用を周知 ・より利用しやすいダイヤへの変更を検討	【事業評価結果の反映状況】 ・路線再編後の利用状況について、関係機関で情報共有 ・石巻市制作のバスマップを活用し、バス利用を周知	A	計画通り適切に実施された	B 運行回数は計画通り、輸送人員、収入ともに前々年度及び前年度比で減少した。 ・輸送人員：前年度比94.5% ・運送収入：前年度比95.7% 【参考】 ・輸送人員：前々年度比72.2% ・運送収入：前々年度比96.5%	・今後も自治体と連携した各種取り組みを継続し、ダイヤ等改善とバス利用の周知を図る。 ・大学生や高校生の移動に合わせた時刻調整及び、バス利用の周知を図る。

(株)ミヤコーバス		【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり （【R4】【R3】今後も自治体と連携した各種取り組みを継続し、バス利用の周知を図る。）	A	計画通り適切に実施された	B	運行回数は計画通り、輸送人員、収入ともに前々年度及び前年度比で減少した。 ・輸送人員：前年度比85.8% ・運送収入：前年度比84.1% 【参考】 ・輸送人員：前々年度比73.2% ・運送収入：前々年度比80.1%	・今後も自治体と連携した各種取り組みを継続し、ダイヤ等改善とバス利用の周知を図る。 ・大学生や高校生の移動に合わせた時刻調整及び、バス利用の周知を図る。
No.12 鮎川線 (石巻駅前～鮎川港)	・石巻市制作のバスマップを活用し、バス利用を周知 ・より利用しやすいダイヤへの変更を検討	【事業評価結果の反映状況】 ・路線再編後の利用状況について、関係機関で情報共有 ・石巻市制作のバスマップを活用し、バス利用を周知					
(株)ミヤコーバス		【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり （【R4】【R3】今後も自治体と連携した各種取り組みを継続し、バス利用の周知を図る。）	A	計画通り適切に実施された	A	運行回数は計画通り、輸送人員、収入ともに前々年度及び前年度比で増加した。 ・輸送人員：前年度比107.2% ・運送収入：前年度比111.1% 【参考】 ・輸送人員：前々年度比112.4% ・運送収入：前々年度比121.5%	今後も自治体と連携した各種取り組みを継続し、ダイヤ等改善とバス利用の周知を図る。
No.13 女川線 (石巻駅前～女川運動公園)	・石巻市制作のバスマップを活用し、バス利用を周知 ・より利用しやすいダイヤへの変更を検討	【事業評価結果の反映状況】 ・路線再編後の利用状況について、関係機関で情報共有 ・石巻市制作のバスマップを活用し、バス利用を周知					
(株)ミヤコーバス		【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり （【R4】【R3】今後も自治体と連携した各種取り組みを継続し、バス利用の周知を図る。）	A	計画通り適切に実施された	A	運行回数は計画通り、輸送人員、収入ともに前々年度及び前年度比で増加した。 ・輸送人員：前年度比108.9% ・運送収入：前年度比111.4% 【参考】 ・輸送人員：前々年度比122.2% ・運送収入：前々年度比123.4%	今後も自治体と連携した各種取り組みを継続し、ダイヤ等改善とバス利用の周知を図る。
No.14 蛇田線 (石巻駅前～蛇田～あゆみ野駅南)	・石巻市制作のバスマップを活用し、バス利用を周知 ・より利用しやすいダイヤへの変更を検討	【事業評価結果の反映状況】 ・路線再編後の利用状況について、関係機関で情報共有 ・石巻市制作のバスマップを活用し、バス利用を周知					
(株)ミヤコーバス		【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり （【R4】自治体と連携し、バス利用の周知を図る。 【R3】引き続き、今後の路線のあり方について、関係機関で協議する。）	A	計画通り適切に実施された	A	運行回数は計画通り、輸送人員、収入ともに前々年度及び前年度比で増加した。 ・輸送人員：前年度比126.4% ・運送収入：前年度比125.6% 【参考】 ・輸送人員：前々年度比107.7% ・運送収入：前々年度比114.8%	引き続き、今後の路線のあり方について、関係機関で協議する。
No.15 御崎線 (気仙沼市立病院～御崎)	沿線高校の登下校時間に合わせたダイヤ調整検討。 バスマップ・総合時刻表の作成、配布	【事業評価結果の反映状況】 ・利用状況について、関係機関で情報共有					

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月15日

協議会名：	宮城県地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域公共交通確保維持事業
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	少子高齢化に加え、人口減少等によりバス利用者は減少しているが、自家用自動車等の移動手段を持たない住民にとって、バスは必要不可欠である。 前述の理由によりバスの利用者が低迷しているところに新型コロナウイルス感染症の影響の長期化に伴う旅客の減少によりさらに厳しい状況に陥っていることから、バス事業者の自主努力のみで路線を維持することが困難な状況であることから、公的支援が必要不可欠である。 特に幹線系統に関しては、「まちづくり」という観点から事業者のみではなく沿線自治体と共に、地域交通全体の中でバス交通の役割・サービスレベルなどを検討・向上する必要がある。

宮城県地域公共交通活性化協議会

平成23年4月1日事業開始

事業名：令和5年度地域間幹線系統

生活交通確保維持改善計画

目的・必要性

幹線バス系統（以下「対象系統」という。）は、地域の交通結節点である鉄道駅を発着し、沿線には大学や複数の高校、地域の中核的な医療機関、大型商業施設等があることから、鉄道を利用する遠距離通学の高校生や通院する高齢者等の足として定着している。このため、社会生活を送るためには交通手段の維持確保が極めて重要である。

しかしながら、県内では、震災後の人口減少や少子高齢化等により、利用者数の減少が続いている中、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う影響の長期化がさらに拍車をかけており、事業者が単独で路線を維持することは困難な状況にある。加えて、沿線市町においては、地域交通の支線となる住民バス等の運行、維持に努めるため、多額の支出を要していることから、対象系統を維持するための補助金の拠出、あるいは住民バス等への転換は困難である。

したがって、対象系統について、国庫補助金を活用することにより、結節する鉄道との連携等で利便性の向上を図りながら、維持確保することを目的として、事業を行うものである。

評価項目

基礎データ

合併状況：14市20町1村 ※うち10市町は、平成15年度から21年度にかけ45市町が合併し、誕生

人口：227.1万人（令和5年3月1日現在）

面積：7,282.22km²

高齢化率：29.1%（令和5年）

協議会開催数：協議会1回、分科会66回（令和4年度）

事業実施主体及び補助対象系統数・車両数

【系統数】

・（株）ミヤコーバス 15系統

【車両減価償却費車両数】

・（株）ミヤコーバス 25台（6台）

※車両減価償却費車両数の（ ）は、当該年度に購入した車両数（内数）

定量的な目標・効果

【目標】

- ・県内の地域間幹線系統について、国庫補助金を活用することにより、継続的な路線の維持確保と、広域的な交通ネットワークの形成を図る。
- ・震災の影響等により、対象となる系統では利用者の減少が続いているが、継続的な路線の維持確保を図るため、年間輸送人員を新型コロナウイルス感染症による影響を受ける以前の水準まで回復させることを目標とする。

【効果】

地域間幹線系統を維持することにより、地域の高校生や高齢者といったマイカーを利用できない住民の生活にとって必要不可欠な交通手段が確保される。

また、結節する鉄道との連携等により、地域内外の交流人口の増加や地域活性化が期待される。

前回の事業評価結果及びその反映状況

【前回(R3及びR4)の事業評価結果】

- ・関係機関と連携した取組が行われていることを評価する。引き続き利用促進の取組を進めていくようお願いする。

【R3及びR4事業評価結果の反映状況】

- ・市町村が実施するバス情報の提供と連携しながら、主な利用層である高校生（特に新入生）に時刻表を配布し、周知を図った。

- ・生活交通の維持・確保、具体的な利用促進の施策に向けた関係者との協議・検討の実施（No.1から15）
- ・ICカードが活用可能な路線については、データを活かした詳細な分析を実施する。

（No.2、3、4、5、6、8、9、10、11、12、13、14）

- ・従前からの取組に加え、利用者増に向けた具体的な取組を実施する。（No.1、4、5、7）
- ・観光利用の促進に係る利用者確保の取組に向けた協議、検討の継続（No.1、5、7、10）

宮城県地域公共交通活性化協議会

平成23年4月1日事業開始

事業名: 令和5年度地域間幹線系統

評価項目

改善のための事業実施の概要、実施状況

【事業実施の適切性】

全ての系統において、計画どおり実施された。

【改善のための事業実施の概要】

- ①沿線高校の新入生に時刻表を配布
- ②観光利用の促進
- ③時刻改正、便数の見直し
- ④市町村の施策との連携
- ⑤路線のあり方の検討

【改善のための事業の実施状況等】

- ①従前から配布に取り組んできた系統においては、引き続き、沿線高校と打合せを行い、配布を行った。
- ②一部系統においては、企画乗車券を市町村に提案し、観光協会との打合せを打診し、検討を進めている。また、インバウンド対策による企画乗車券「東北インバウンドバス」を継続した。
- ③JRのダイヤ改正に合わせ、必要に応じて時刻改正を行った。
- ④市町村が作成したマップやホームページによる積極的な情報提供のほか、運転免許自主返納者も含めた高齢者に対する運賃割引、補助を実施した。
- ⑤一部系統については、関係機関・市町村等と今後の路線のあり方の協議を継続した。

目標・効果の達成状況

【目標・効果達成状況】

A評価: 11系統 B評価: 4系統

11系統が目標を達成でき、昨年度を3系統上回ったが、他の系統においては、沿線地域の人口減少や、新型コロナウイルス感染拡大の影響の長期化に伴い、主な利用層である高校生の通学利用の減少等の影響を受け、輸送人員の目標を達成できなかった。

またB評価4系統のうち2系統においては、対前々年度比では目標達成率80%未満となったが、対前年比では対前々年度比と比べ減少幅が少なくなっている。輸送人員の減少に係る現状分析を進めるとともに、考えられる要因を踏まえた利用促進策の実施により、住民の足の確保に努める。

【目標(指標)及び評価基準】

1. 運行回数が計画通りであったか
2. 前年度の年間輸送人員を維持しているか により評価

※評価の判定基準

- ・A ⇒ 年間輸送人員の前年度比について、目標達成100%以上
- ・B ⇒ 年間輸送人員の前年度比について、目標達成80%以上100%未満
- ・C ⇒ 年間輸送人員の前年度比について、目標達成80%未満

事業の今後の改善点

- ・全ての系統において、市町村の施策と連携しながら、通学、通院等に合わせたダイヤの設定で利便性を向上させるとともに、バス利用の周知を図り、利用者の増加を目指す。
- ・インバウンド対策や、沿線の観光資源を活用した企画乗車券を検討し、観光利用の誘客による更なる利用者の増加を目指す。(No.1)